

神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミル ナードゥ出身のラニ スップラマニウム女史（訳注：2012年12月1日逝去）が、バガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれていました。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってくださいています。これは彼女の素晴らしい回想録の第三部です。第一部、第二部を読まれる方はこちら [第1部](#) [第2部](#) をクリックして下さい。

ラニ マー女史へのインタビューより

第 3 部

私たち帰依者は、宿舎が（アシュラム内に）建設されるまで、毎日パタ マンディラム（旧マンディール）からプラシャーンティ・ニラヤムまで来ていました。そして建設工事中、スワミは木々を植えたり他の雑用などの助けが必要でしたので、私たちは^{ほうき}箒を使って掃除をしたり、何でも奉仕をしていました。スワミご自身が「あなたはこれをしなさい。あなたはあれをしなさい・・・」と、仕事を割り当てておられました。

そうして私たちはプッタパルティに出入りし、宿舎の用意が整うまでプラシャーンティ・ニラヤム内のホールでバジャンにも参加して、また（パタ マンディラムに）戻っていました。後にここ（プラシャーンティ・ニラヤム）の人々は入れ替わり始めました。

何人かはここに住居を移し、永住していました。彼らはここに留まることができました。他の人たちはここに来ては帰って行きました。私たちが来た時にはいつでも部屋だけが与えられました。ここに永住していなかったからです。常に滞在している人たちには永住できる場所がありました。

スワミは宿泊施設を管理しておられました。ですから私たちが到着すると、誰が来て



いるのかをご存知でした。スワミは銀製のドアが取り付けられたバルコニーにお立ちになり、おっしゃいました。

「おお！ 来ましたね！ よろしい！ あなた方はこの部屋に行って滞在できます」

すべての人のための十分な住居はなかったので、スワミは私たちに他の家族と一緒に部屋を割り当ててくださいました。私たちは主に、カストゥーリ ママ（小父様）と滞在しました。スワミが「行ってカストゥーリ家の人々と滞在しなさい」と言われたからです。私たちには同じ食習慣があり、同じ生まれ育った環境から来ていて、同じような食事をし、何でも合致していたからです。ですから、私たちはカストゥーリ小父様とはとても親密な関係になりました。

（※ カストゥーリ博士はスワミの側近で、御講話の通訳・翻訳者であり、月刊誌『サナータナ・サーラティ』の初代編集長でもあった）

私たちがある日、プラシャーンティ・ニラヤムに来たとき、プラシャーンティの建物はまだ準備ができていませんでした。この出来事は新しいマンディールの建物ができる以前に起こりました。私たちは様々な奉仕をしに来ていて、毎日バジャンにも参加しなければなりませんでした。そのため、私たちは常にプラシャーンティ・ニラヤムに出入りしていたのです。建物の土台は築かれていましたが、椅子などはありませんでしたので、スワミは砂の上に座っておられました。当時、私たち三人姉妹は（プラシャーンティに）来ていましたが、四番目の妹はまだ一緒に来ていませんでした。その妹はずっと後になってから来るようになりました。

バクティ（信愛）とムクティ（解脱）を授けるお方



私たちが（プラシャーンティ・ニラヤム）に来ると、スワミは「ここに来なさい！」と私たちを呼んでくださいました。そして、私たちをスワミと共に砂の上に座らせてくださいました！ 私たちが座ると、スワミは私の姉のカマラ サーラティをご覧になりました。姉は大変スワミに祝福されていて、スワミは彼女にこうお尋ねになりました。

「あなたは何が欲しいですか？ あなたが欲しいものは何でも私が与えましょう！」

すると姉は私たちのほうを見ました。突然の意外な質問だったからです！ 姉は言いました。

「スワミ、私はバクティ（信愛）とムクティ（解脱）」が欲しいです」

スワミは姉をご覧になり、お尋ねになりました。

「それらを欲しいのは確かですか？ それは困難なことですよ。あなたはそれが欲しい

のですか？ バクティとムクティですか？」 姉は「はい」と答えました。スワミはおっしゃいました。「私があなたに（このように）尋ねているからと言って、そんな風に答えてはなりません！」 どうして彼女が「私は美しい家が欲しいです」とか「私はもっとお金が欲しいです」とか「私は人生で善いことを行う私の子どもたちが欲しいです」などと言えるでしょう？ 私たちには多くの欲望があるのです！

スワミはおっしゃいました。

「正直になりなさい！ 私が（そのように）尋ねたからと言って、バクティとムクティを願ってはなりません。この世の物で何か欲しいものがあるのなら、正直に願いなさい！ あなたにそれを与えましょう」 すると姉は言いました。

「いいえ、スワミ。私はすべてを持っています。何か欲しいものがあるとは思いません。私はバクティとムクティが欲しいのです」 スワミはおっしゃいました。

「与えられています！ 私はもうあなたに与えています！」

そして、スワミはもう一人の姉妹にお尋ねになりました。

「あなたは何が欲しいですか？」

彼女もまた同じように答えました。そしてスワミも同じようにおっしゃいました。

「あなたは私に答える前によく考えなさい！ 正直になりなさい！」

そして、彼女も言いました。

「スワミ、私もバクティとムクティが欲しいです」

それから、スワミは私にもお尋ねになりました。

「あなたは何が欲しいのですか？」 私は言いました。

「スワミ、私も同じものが欲しいです」

なぜ、スワミが私にも繰り返し同じことをお尋ねになったのかわかりませんでした。

「ラニ マー、それは難しいことですよ！ あなたがそれを欲しいのは確かですか？」 私は言いました。

「はい、スワミ。私はそれ（バクティとムクティ）が欲しいです」

スワミはおっしゃいました。

「OK、ではあなたにそれを与えましょう！」

スワミは常に聖典から何かを話しくださったものですが、そのときも『ラーマーヤナ』か『バーガヴァタ』か、何か霊的な事柄について話してくださいました。スワミは決して家族やその他の事について、多くを話されることはありませんでした。その後、私たちはその場所を出ました。

試練を通じて到達する

そしてこの出来事の後、スワミは私の夢の中に出て来られ、おっしゃいました。

「ラニ マー、あなたがどのような体験を通るかわかりますか？ あなたはバクティ（信愛）とムクティ（解脱）を願ったのです！ 私はあなたを濡れタオルのように扱うこととなります！ 人がタオルを洗って水を取り除く際に絞るように、私はあなたをねじり、絞るでしょう。あなたはその試練を受け止めることができますか？」 私は言いました。

「はい、スワミ！」

スワミはおっしゃいました。

「わかりました。しかし、あなたは重大なテスト（試練）に直面するでしょう！」

わかりますか。私はスワミが夢の中ではすべてをお話にならなかったと感じていたので、ただ自分自身で（このように）思いました。なぜスワミはそのことを私にお話しになったのだろうか？ 私は、良くも悪くも特定の人々にとって、プラーラブダ カルマ（過去から蓄積されたカルマによって現在経験していること）は好ましいことなのだという結論に達していました。その人たちはおそらく、数回のテストによってそれ



（解脱）に達することができます。あるいは、スワミが「それを与えましょう」と言われても、それは今世で（解脱が与えられることを）意味していないかもしれません！ スワミはそれを来世で与えられるかもしれません。なぜなら、スワミにとって死や生は重要ではないからです！ 人生は絶え間なく続いており、同じ魂が行き来しているのです。

私たちは『バガヴァッド・ギーター』を読みますが、その中でも、死が人間であることの最終目的であるとは示されていません。（魂の）旅は（肉体の）死後も続いています。ですから、スワミがどのような理由で私に（解脱を）授けてくださるのかは、まだ私にはわかりません！ しかし、夢の中でスワミは強く言われました。

「あなたは準備ができていますか？ 私はあなたを濡れタオルのように絞りますよ！ 今ならまだその願いを変更することができますよ！ あなたは『いいえ、私はこの世の幸せに満足しています。私はまだムクティ（解脱）が欲しいとは思いません』と、言うことができますよ」

バクティ（信愛）以上に、ムクティ（解脱）は更に難しいことです。それはマインド（思考する心）からの完全な自由です。それは世捨て人（放棄者、隠遁者）のあり方に似ています。私は言いました。「いいえ。スワミ、私はバクティとムクティの両方が欲しいのです。あなたが私を締め付けてもかまいません！」 その時から、私は多くのテストと試練、あらゆる苦しみをすべて経験しました。私ができるように望んだからだと思いますが、どのようなテスト（試練）にも覚悟していなければなりませんでした！ テスト（試練）の最中、私は実に苦しみますが、私ができる苦しみを超えるのではなく、何かが

私にその苦しみに立ち向かう勇気を与えてくれるのです！ ですからその苦しみに屈することはありません。私は繰り返しスワミの御名を唱え、更に祈ります。スワミは、それ（神の御名を唱えること）は心を平常に保つ唯一の方法だと言われています。常に祈ることです。

スワミはおっしゃっています。

「問題が起きたとき、問題のことを考えてはなりません。ただ『これはすべてアニティヤム（非真実）だ。それはこの世の次元に属していることだ。私はこれをすべて超越している』と考えなさい。そして、私の名前を唱え続けなさい。そうすれば、私はそれに立ち向かう強さをあなたに授けましょう」

夢であると断言すること



かつて、スワミはプラシャーンティ・ニラヤムで、私を一人だけインタビューに呼ばれました。通常スワミはグループで呼ばれますが、時折一人だけで呼ばれることもあります。スワミは私にお尋ねになりました。

「ラニ マー、家庭内で問題はありますか？」

私は言いました。

「はい、スワミ」 スワミはお尋ねになりました。

「それらの問題を乗り越える方法を知っていますか？」

私は言いました。

「いいえ、スワミ。わかりません。私にお話してください」

スワミはお尋ねになりました。

「夢を見ているとき、あなたはいつ自分が夢を見ていることを自覚しますか？」 私は言いました。

「スワミ、目覚めたとき、私は自分が夢を見ていたことを自覚します」

スワミはおっしゃいました。

「目覚めるまでは、あなたは自分がその夢と一体になっていませんか？」

「はい（なっています）」と、私は言いました。

わかりますか。スワミが意味されていたのは、眠っているとき、私たちは自分が夢を見ていることに気づいていないということです。夢の中では、あなたは夢が現実（事実）だと感じています。もう一人の「私」がベッドの上で眠って夢を見ているとは気づかないのです！ 二人の「私」は存在しません。一人だけです！ スワミはおっしゃいました。「同様に今、あなたは夢を見ているのです」

「これらの問題はすべて夢の領域に分類されます。ですから、あなたが自分自身に言い聞かせなければならぬことが何であるか、わかりますか？

『スワミ、それはすべて白昼夢です！』です」あなたがそのように言えば、その問題はあなたに何ら影響を及ぼしません！ しかし、起こっていることが何であれ、あなた自身が（夢と現実を）同一視すれば、あなたは苦しむことになります。それゆえ、あなたは（自分に与えられた）役柄を、ただ演じなければならないのです」

私たちが（夢と現実を）同一視していて、私たち自身で（夢と現実を）どのように分離すべきかについて、スワミは説いてくださったのです。スワミはおっしゃいました。

「あなた方は皆、役柄を演じているだけです！ 役柄とはジーヴァ（一個人の存在）、魂のようなものです。『私はだれそれ、何々だ！』というのはエゴです。誤った識別（同一視）です。それは本当のあなたではありません。あなたは自分自身に言い聞かせねばなりません。『私は（自分の）役柄を演じていますが、私の本質はアートマ（真我）です。スワミ、私はこのすべてを超越します』と。あなたは絶え間なくこの想いを瞑想していなければなりません！ そうしなければ、あなたは問題に屈することになります。苦しみます。不安になります。心配します。そうではなく、解毒剤のように、あなたは自分自身を救わなければなりません。ですから、「これはすべて夢です、スワミ」と言い続けなさい。もしそう言っても気づきが与えられなければ、そのときは私に願いなさい。『スワミ、どうか私に気づきをお与えください』と。私は常にあなたが望むものは何であろうと与える用意があります！ しかし、あなたは願わなければなりません！ 私が勝手に、あなたにそれを授けることはできないのです！」

スワミはおっしゃいました。

「あなたが正しいことを願っているのであれば、私は必ずあなたを助けます。あなたが世俗的なものを望んだとしても、それもあなたに与えますが、再度あなたはマーヤー（妄想）、迷妄に巻き込まれるでしょう。しかし、あなたが望むのであれば、私はすべてが夢である（と自覚できる）経験をあなたに与えましょう。そして、それ（迷妄）があなたに影響を及ぼすことはないでしょう」 このように、スワミは最初のころから、私たちに霊的指針のみを与えてくださったのです。

速い進歩



かつて、何年もの歳月が過ぎた後、スワミは私の妹と私をインタビューに呼ばれました。スワミはおっしゃいました。「あなた方は多くのサーダナ（霊性修行）を行ってきました！ あなた方は行ってきたすべてのサーダナにより、大変高い段階にまで到達していなければなりません！ あなた方の日課は、吟唱、バジャン、読書、と霊的な活動がぎっしり詰め込まれています。しかしこれらすべての霊性修行にもかかわらず、あなた方は

まだ到達すべき段階に到達していません。なぜでしょう？ わかりますか？」 私たちは答えました。「いいえ、スワミ。(私たちの行っている) 霊性修行が、私たちをその段階に連れて行ってくれると思っていました」

スワミはおっしゃいました。

「サーダナ(霊性修行) そのものがあなた方をその段階に連れて行くことはできません。それは自己分析(自己内観) とサーダナ(霊性修行) の両方によって成就すべきものです。霊性修行は自己分析と結びつかなければなりません。なぜなら自己分析のみが、あなたが人間としてどこで道を誤ったかを指摘してくれるからです」

私たちはアートマ(真我・魂) のレベルから行動していません。私は今、この世で人間として行動しており、だれかの母親であり、妻であり、姉妹等々です。

スワミはおっしゃいました。

「自己分析(自己内観) はあなたの過ちを指摘し、霊的にどこが欠けているかを指摘する手助けになります。自己分析をしないのなら、進歩することはできないでしょう。今、あなたは霊性修行を4分の1に減らし、(残りの) 4分の3は自己分析しなければなりません。そうすればあなたは急速に進歩するでしょう！」

「あなたがどのように話し、何を聞き、何を行うか、何を食べるか、人生のすべての歩みを細かく分析(注意して検討)しなければなりません！ 私は正しいことをしているだろうか？ それは霊的に大丈夫だろうか？ 私は正しく考えているだろうか？ 正しく話しているだろうか？ 正しいことを行っているだろうか？」

所有物(財産) に関してさえも、スワミは私と姉妹にお話になりました。

「質素でいることは、この(霊性の) 道に必須です！ あなたの旅行カバンを軽くして、(人生の) 旅を心地よいものにしてください！ 多すぎる所有物は必要ありません。最小限にしてください。あなたの人生に更に、更に(所有物を) 加えてはなりません。あなたの霊性の道にはそれ(多すぎる所有物) は障害になるからです。最小限に保ちなさい。そうすれば、あなたは心を様々なものに明け渡すことはないでしょう」

そこで、その後、私たちは更に自己分析(自己内観) を始めました。なぜなら、以前は多くのなすべきことがあり、ジャパ、瞑想、バジャン等々に多くの時間を費やしていたからです。

正しい優先順位を見つけること

そして、大変興味深いもうひとつの出来事が、ここプラシャーンティ・ニラヤム滞在

中に起こりました。ある日、スワミは朝 7 時に使いを送って来られました。当時、私の妹はスワミの個人的な奉仕を任されていました。彼女はブラフマチャーリニー（禁欲主義の女性）で結婚していませんでした。スワミはその妹を通じて伝言を送って来られました。「行って、ラニマーを連れてきなさい」妹は階下へ来て言いました。

「スワミが上がってくるようにおっしゃっています」私は上階に上がって行きました。スワミはとても親切に歓迎してくださいました。

「座ってください！」と、スワミはおっしゃいました。私はなぜスワミが私をお呼びになったのかを思い巡らし、緊張していました。おそらく私が何か間違いを犯して、スワミは私を厳しく罰して、正そうとされているのではないかと思いました。

スワミはおっしゃいました。

「ラニマー、あなたにあるビジネスマンについての話をしなければなりません」なぜスワミが、私にあるビジネスマンの話をしなければならないのか不思議に思いました！しかし、私は何も尋ねませんでした。スワミはおっしゃいました。

「あるビジネスマンが私のところに来たので、彼にインタビューを与えました。そしてそのインタビューで、彼は多くの問題を抱えていて、それらの仕事上の問題のために多大な緊張とストレスを感じていると話してくれました。私はそのビジネスマンに実行すべきいくつかの霊性修行を与え、しばらくしてからまた私に会いにくるように告げました」

「彼はその後、私のところに戻ってきたので、再度インタビューに呼びました。そして、仕事上の問題はどうなったかを尋ねました。

『問題は減少したことでしょね？』彼は言いました。

『いいえ、スワミ！ 同じままです！』私は彼に尋ねました。

『どうして同じままであることなどできるでしょう？ いいえ！ そんなことはあり得ません！ 私があなたに実行するように言ったことを実行しましたか？』

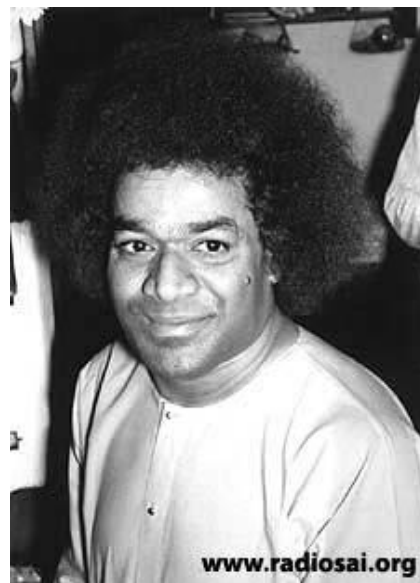
私は彼にいくつかの指針を与えていました・・・これを朝に行い、夕方にはこれを行うように等々・・・彼は言いました。

『スワミ！ 私は何を申し上げることができましょう！ 私はとても多忙で、自分の問題で身動きがとれない状態です。あなたが助言してくださった霊性修行を行う時間を見つけることなどほとんどできませんでした』するとスワミは彼に質問されました。

『わかりました。あなたは大変忙しく、霊性修行を行う時間がなかったのですね。しかし同時に、あなたはそれほど多忙な状況の中で、朝のコーヒーを飲むのを止めましたか？』彼は言いました。

『いいえ、やめませんでした』

『では、朝食はどうですか？ やめましたか？ 適切な時



間に靈性修行の時間が取れなくても、後で時間を取ることはできましたね？ そうではありませんか？』 彼は言いました。

『はい、スワミ。私は朝食を抜きませんでした』

『昼食は抜きましたか？』 彼は言いました。

『いいえ』

『お茶の時間は？』

『いいえ』

『夕食の時間はどうですか？』 彼は言いました。

『いいえ』

それから、スワミはその人におっしゃいました。

「あなたはデーハ（身体）のために、シャリーラ アハーラ（身体のための食物）であるコーヒータイム、朝食、昼食、お茶の時間、夕食に、どれほどの時間を費やしているのですか！ 5回の食事の時間を身体のために費やしているのです！ いつなりと捨て去らなくてはならない身体のために！ しかしあなたの本質であるアートマ（真我、魂）はあなたに真の祝福をもたらし、あなたに平安と幸せをもたらすことができます。アートマ（真我）レベルだけが、あなたにそれをもたらすことができ、シャリーラ（身体）レベルでは、それを与えることはできません。しかし、あなたはそのために一度も（靈性修行に座る）時間を取らなかったのですね？ それなのに私の恩寵が欲しいのですか？ どうしてあなたに恩寵を授けることができるでしょう？」

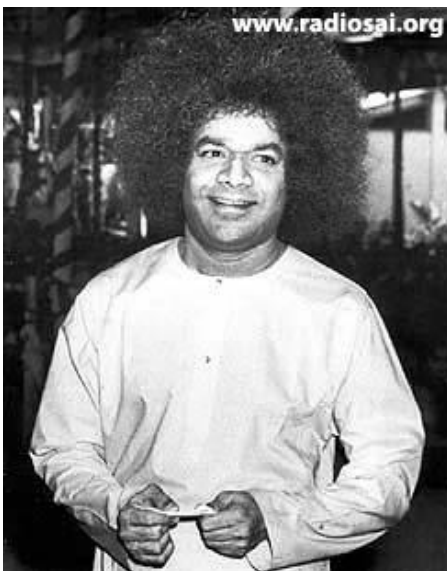
スワミは私にお話しになりました。

「いいですか、人々は私の恩寵を欲してはいても、私の指示には従わないのです」

スワミはその人におっしゃいました。

「アートマ アハーラ（魂の食事）はシャリーラ アハーラ（身体の食事）よりも大切です」スワミが何をしよう彼に言われたかはわかりませんが、仮にスワミが一時間ガーヤトリー（マントラ）を唱えるように言われたなら、その人はそれを最優先すべきです。これが、スワミが私にお話しになったことです。

「皆さんは自分のしたいことではなく、私の指示を最優先しなければなりません」



スワミはおっしゃいました。

「シャリーラ アハーラ（身体の食事）をあきらめても、アートマ アハーラ（真我の食事）を止めてはなりません。アートマ（真我、魂）に食事を与えないなら、あなたが目覚めることはないでしょう。それ（アートマ）はバガヴァン（神）が宿るあなたの魂であり、あなたが常にシャリーラ（身体）に食事を与えてばかりいるなら、アートマ（真我）は飢えているので、あなたは（神の祝福を）手に入れることはできないでしょう！」スワミはそのビジネスマンにおっしゃいました。

「スワミの指示に従わないのであれば、あなたのアトマは飢えるでしょう。あなたは自分の身体への食事を優先し、魂についてはまったく重視しませんでした。それでどうして私があなたを助けられますか？ 私の助けがほしいなら、私があなたに告げたことを行わなければなりません。それをあなたの最優先事項にすべきです」

よろしいですか。ある意味でそれは一般的なことだったのでしょうが、スワミは私にもそのことを自覚してほしかったのです。私を呼んで、直接あれこれのことを規則正しく行うよう伝える代わりに、スワミはその紳士を例に出して話してくださったのです。それが全容です。これは私たち全員にとっての教訓であると、私は妹に話しました。

グル（霊性の師）があなたに『バガヴァッド・ギーター』を読むように、あるいはジャパ（神の御名を繰り返すこと）をするように、瞑想をするように言われるとします。もしあなたが、「今日、私はすべき仕事がたくさんあり過ぎて、『バガヴァッド・ギーター』を読めない」と言えばどうでしょう？ 仮に朝、『バガヴァッド・ギーター』を読む時間がないのであれば、夕方に読みなさい！ 神は「この時間にそれをしなさい！」とは言われません！ それがあなたを高めることなら、なぜ読まないのでしょうか？ それはあなたの助けになります。他の人々があなたを助けてくれるのですか？ 買い物に行ったり、ここそこへ誰かに会いに行ったりしても、それはあなたの助けになりません！ 私たちが霊性の道を歩んでいるなら、間違ったことを優先しても、神の恩寵は常にそこにあります。なぜなら、私たちは皆、神の子どもたちだからです。それは私たちの（日常の）実践のパーセンテージ（割合）によります。あなたは学生のようなもので、あなたの日頃の実践に応じて、40点、80点、あるいは100点と得点するように、バガヴァンもそれと同様なのです！

（第4部へ続く・・・）

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01JUN08/14-h2h_special.htm